

令和二年七月豪雨を見て感じたこと

糸島市立前原西中学校 2年 小嶋 亜衣子

毎年、様々の地域で災害が起きているが、今年も熊本県を中心に「令和二年七月豪雨」が起きた。大雨の影響で川が増水し、車が流され、家が浸水し、橋が流されるなどの悲惨な現場のニュースが、テレビで何度も放映された。私は毎回、胸をドキドキさせながら、映像を見入っていたが、避難場所に避難している方々の数が少なく、逃げ遅れた方々が多くいるのではないかと心配していた。

次の日、雨が止むと被害の状況がはっきりとしてきた。川に流された車が横転していたり、家の中にまで泥が押し寄せた映像やヘリコプターで救助される人々などがニュースで放映されていた。車が流された被災者は、とっても不便だろうなあ。泥を掃除するのは、大変だろうなあなんて、最初は漠然と見ていたが、そのうち「ヘリコプターをもっと増やせば、もっと早く救助に行けるのに。」とか、「あの赤い橋は早く修理しなければ、住民の人々は困るのに。」などとニュースを見ながら、テレビに向かって文句を言っていた。

ここで文句を言いながら、ふと考えた。この災害の復旧にどれだけの費用がかかるのか。きっと想像もつかない金額だろう。では誰が負担するのか。税金だから、国民が平等に負担するのだろうか。そうに違いないと一旦は納得できたが、別の疑問が沸いてきた。

国は、こんな大変な状況にある被災者に対しても平等に税負担を求めるのか、ということである。

国税庁のホームページで調べてみると、なんとトップページに「豪雨に関するお知らせ」として案内があり、申告手続きが出来ない人や税金を納めることが難しい人にはそれぞれ期限の延長手続き方法がアップされていた。更に、住宅などに損害を受けた場合には、確定申告で所得税などの軽減や還付を受けられることも説明されていて、被害者に優しい制度があることを知ったと同じに安心した。

災害が起きると被害者の救助や救済に多くの税金が必要となるが、納税者である大人の人達はその事を理解しているだろうか。税金を納める事に関して、不平・不満を持っている人がいるとしたら、税金の制度の中には、被災者に優しい制度がある事を知っているだろうか。

私は今、買い物をした時の消費税しか納める事ができていないが、将来は、もっと税に対する理解を深め、正しく税金を納められる大人になりたい。また、税のありがたさや税の大切さを伝えられる納税者になりたい。